



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子

児童数 男子472名 女子439名 計911名

◎しっかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊧すんで学び・㊨れにも仲良くできる しわすだっ子

児童の洋々たる未来を信じて

校長 富山 益光

令和6年が始まりました。保護者、地域の皆様におかれましては、穏やかに新年をお迎えのことと存じます。6年生とはわずか3か月となりますが、児童1人1人にとりまして、改めて実りの多い1年になるように、教職員一同力を尽くしてまいります。本年も、本校教育活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年に当たり、児童の迎える未来について考えてみました。私が言うまでもなく、児童の未来は可能性に満ち溢れています。洋々たる未来が広がり、夢や希望、なりたい自分に近づけるように、そしてまだ夢等が見つからない児童にとっては抱けるように、日々の教育活動に取り組んでまいります。

改めて児童の未来を思うとき、決して楽観視はできません。加速度的に時代は大きく変化をしています。児童が社会に出て活躍する未来は、これまで以上に予測困難な時代を迎え、生産年齢人口の減少や今ある職業の何割かは、人口知能(AI)により失われることでしょうか。そのような時代であっても、自己の可能性を信じて、ときにははかたくなにぶれることなく突き進み、ときには先見の明をもちながら臨機応変な対応も取りつつ、進んでいかなければなりません。小学校は、単に通過点ですが、幼少期に描いた夢や希望を持ち続け、実現させた方も多くのことと思います。児童の夢を実現させるためにも、本年も自己肯定感を高めることを第一に取り組んでまいります。どんな些細なことであっても、自分の行動は、自分で考え、判断し、決定していくことが肝要です。雪が深々と降り積もるように成功体験を重ねることが必要と考えます。1年生であっても同様です。もちろん、大人の手助けは必要かもしれませんが、本校で取り組んでいる自主学習・家庭学習の取組でも、1年生の保護者の皆様のご協力により、多くの児童が進んで取り組み自信へとつなげています。今後もよき伝統を継続してまいります。また、コミュニケーション能力を育成することも大切です。今後ますますグローバル化が進み、異なる価値観をもった他者とでも、協働できる人材の育成は不可欠です。他者の考えを受け入れ、折り合いをつけながら前進できることこそが、夢の実現につながります。しかしながら少なからず挫折を味わうことも想定されます。何度でも困難に立ち向かい、また創意工夫で乗り越える力(レジリエンス)も欠くことはできません。

2学期の終業式に「一年の計は元旦にあり」という話をしました。新年を迎え、夢や希望に満ち、目標を考えた児童もいることと思います。その目標を実現させるためには、短期、中期、長期的な視点に立ち、課題を1つ1つ克服するスモールステップで進んでいくことが方法の1つに挙げられます。今後も継続して指導してまいります。

私は、児童の未来を信じています。「最近の若い者は…」という若者を揶揄する言葉もありますが、私は、児童を含めた若者の力を心から信じています。そう思わせてくれたのは、大谷翔平選手です。これまでのどんな日本人選手でも成し遂げられず、むしろ日本の長距離ヒッターは、メジャーリーグでは成功しないと言われていたある種の常識を覆し、メジャーリーグでホームラン王を獲得しました。これから未来を担う若者の象徴的存在です。子供たちの洋々たる未来を信じて、児童1人1人が自己実現できるように心して支援いたします。